



過去・現在・未来へと上昇する思い

一負の遺産『四日市公害』を糧とした地域再生計画一

藤田 早耶佳

問題設定

『地球温暖化』

『エコロジー』

『省エネルギー』など、

今地球環境問題が大変な話題となっている。

しかし人はみなこの問題をどこかで無関係と感じ、見て見ぬふりをしている。

かつて私たちは『公害』という環境問題で

大きな大きな失敗をしたというのに・・・

過去に起こった『四日市公害』の傷は今もなお四日市市塩浜地区に深く残り続けている。そして今も公害は完全に癒えていない。戦後の高度経済成長を促したコンビナートによりもたらされた環境破壊『公害』。当時、水質汚染による公害が多かった中、四日市公害は大気汚染による公害で注目をあびた。現在徐々に環境を取り戻し、再び晴つていく人々の意識も高まっている。

そして晴れた今、今度は地球温暖化という大規模な大気汚染を招いた地球環境問題が話題となり、生活に影響を与えている。過去の公害と現在の地球温暖化。この共通の産業が今再び私たちの生活環境に影響を及ぼそうとしている。今こそ、以前大気汚染で苦しんだ四日市市塩浜地区が、その負の遺産を糧に大気汚染の危険性を地域の人々、三重県の人々、いや日本・世界の人々に訴えかけていくべきである。この地区には公害という負の遺産を、長年環境と向き合ってきた歴史がある。環境問題に対して多くの経験を持つこの地区こそ、過去の苦難や悲しみなどさまざまな情報を幅広く公開し、現在直面している問題に対して早急な対策を促すべきであると思う。そのような場を用意し、多くの人に環境に対する意識の向上を地区全体で促すことが必要なのではないだろうか。

また、化石燃料が問題となっている今、コンビナートは本来の役割を担うものへと転換する必要性がでてくる。特に第1コンビナートは、公害発生元でもあり、3つあるコンビナートの内最も早くコンビナートとしての役割を終るものと考えられる。この転換後、コンビナートにも再び役割を担うように促すことはできないだろうか。

忘れていませんか？ 『公害』と言う名の

環境問題を。

目を逸らしていませんか？ 直面する環境問題を。

そんな人々の薄れた環境意識を

『公害』を経験した場所から再び呼び起こす！！

四日市公害

昭和30年代、戦後の復興のため四日市市塩浜地区に石油化学コンビナートが建設され、日本の経済成長の先導の役割を果たした。しかし一方でコンビナートから排出されるSOx等により大気汚染を中心に環境が破壊された。この大気汚染により1960年～1972年にかけて四日市ぜんそくが周辺地域で起こり多大な被害を被った。



提案

①環境破壊において経験した全ての負の遺産を糧に、その情報を幅広く地域や三重県・世界へと発信。人々の環境に対する意識を向上させ、塩浜地区自身も自然環境意識先進地域に変える。



②コンビナートの今後の転開として再び自然に溢れる環境でかつ環境を最も大切に考える土地（研究所等）へと変えていけるように促す。



敷地の特性

計画地・三重県四日市市塩浜町1番地

▲四日市市街へ
▲近鉄塩浜駅
▲第一コンビナート
▲昭和四日市石油
▲石原産業
▲コスモ石油他
▲環境意識先進地域の拠点の形成
▲ヘルスプラザ（塩浜病院跡地）
▲塩浜小学校

第一コンビナート
戦後、日本の経済成長の先導の役割を果たしたコンビナート。国が公害対策で買収した企業（昭和四日市石油、石原産業、三菱七化学）が集まったコンビナート。

ヘルスプラザ（塩浜病院跡地）
三重県立総合医療センターの敷地内にあり、その敷地の一部として1999年にできた建物。塩浜病院跡地はコンビナートにも含まれていない。四日市ぜんそく患者が多数入院しており、公害の被害が深い土地である。現在、室内プールや運動場などがあり環境意識の拠り所となっている。

塩浜小学校
コンビナートにも近い学校で自然豊かな環境が感じられる学校。この小学校の卒業生は約50人おり、当時の子供たちが今も地元で活躍している。後継者がいない状況にあり、その跡地の使い方は今もまだ検討されている。

コンセプト

環境先進地域へと変えていくための拠点として、3つの拠点要素を建物に組み込む。

拠点となるための3本柱



資料館

・県の遺産『四日市公害』に由来する資料の展示
コンピナートの形態、公害発生経緯、対策、除去、自然
回復と市民運動など公害の歴史を情報発信。
負の遺産『四日市公害』を軽減された方による語り
環境健康問題に関する資料の展示
県・市の取り組み、企業との取り組み、生活での取り組み等
今までのように変化してきているかを情報発信する。



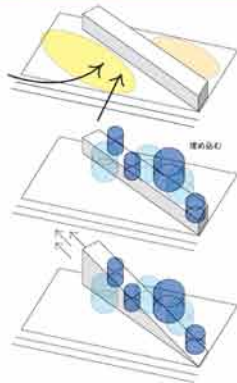
研究

・企業は以前から石炭粉に代わる新エネルギーになり得る炭素・
燃料電池の研究を行っている。現在、四日市臨海工業地帯を中心
に、石炭粉に代わる新エネルギーに焦点をあて、この新エネルギーを有効利
用できないかと考えている。
・新エネルギー・燃料電池の研究
・都市未来のあり方の研究
・企業社会制度についての研究
・企業・自治体・自治会・三業大学・その他関係大学が協力
し、その研究の拠点をここに作る。

・『四日市公害内覧館』による公害に関する講義
公害について知るために理解を深める場をつくる。
新エネルギーについての取り組みの講義
企業が推進する炭素・燃料電池について知る。
・地球温暖化に関する講義
地球温暖化について知識を深め、対策を考える場をつくる。
・日本の技術振興政策
海外の先進技術の導入、産学を結ぶ新しい企業制度の
促進を促す。



構成原理



建物を斜め配置

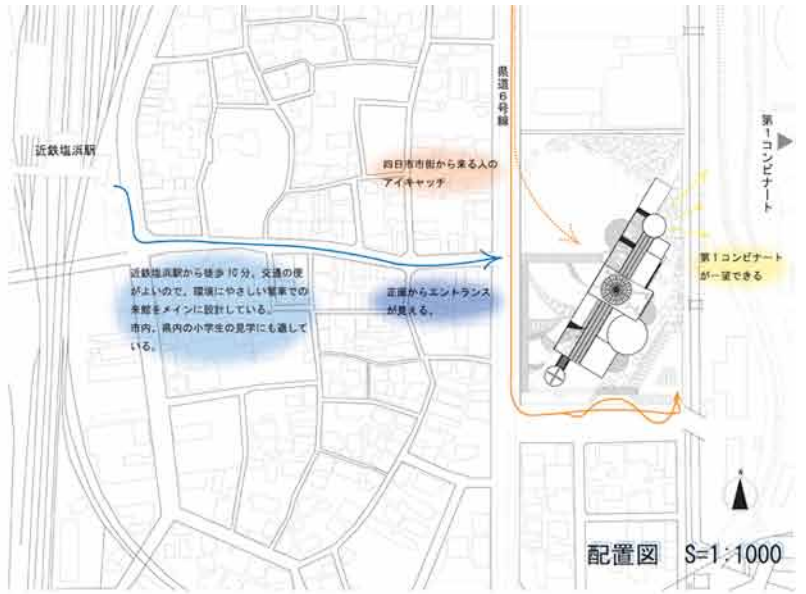
・駅から続く直線の道と建物に向う道（四日市市街地から向
かかって来る）から来る人を受け止める。
・道で通過する人にも建物を見せる。
・自然の通り道をつくる。

コンピナートモチーフの円を埋め込む

・この土地の歴史的特徴であるコンピナート（遊歩センター）の
形を建物内に埋め込み、公害の歴史を建物内にも刻み込む。

建物を高くし傾斜をつける

・現在は高層に第1コンピナートを設けられる建物に無い
ので、現状を切り変える必要を製造する理とする意味で建物の
高さ高を高くし、コンピナートが眺められるようにする。
・この地の歴史（公害から立ち上がる、乗り越える）を建物自身が
アップロードする。



空間の特徴

ガラスの円筒空間

・外側に置かれるが、その分床高が低くす
てくまで高さを確保し、真ん中にあるような空間
を確保する。3層の未来志向の空間を
から未来へ向う見る視線の先に位置し、ま
るく窓の中に置かれたら、かつ壁では見
えぬ視線の2つをもちつこの空間で、訪れ
る人に開かれた歴史と自然が共存する未来を製造
してもらう。3層の展望フロアではコンピナ
ートの要素を継ぎ、訪れた人それぞれが自由
に創る未来を製造してもらう。

屋外展示場

・公害写真の展示と同時にコンピナートが
残っているのがコンピナート時代に由来する
自然の歴史を伝える。リサイクルなどの
展示



デッキ

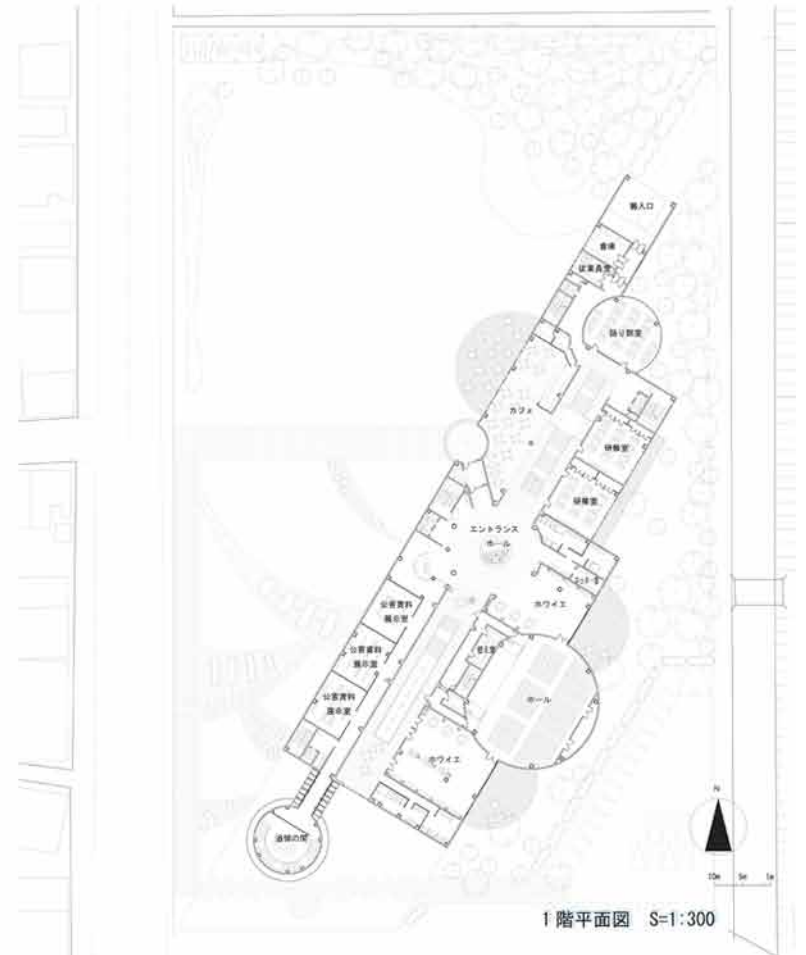
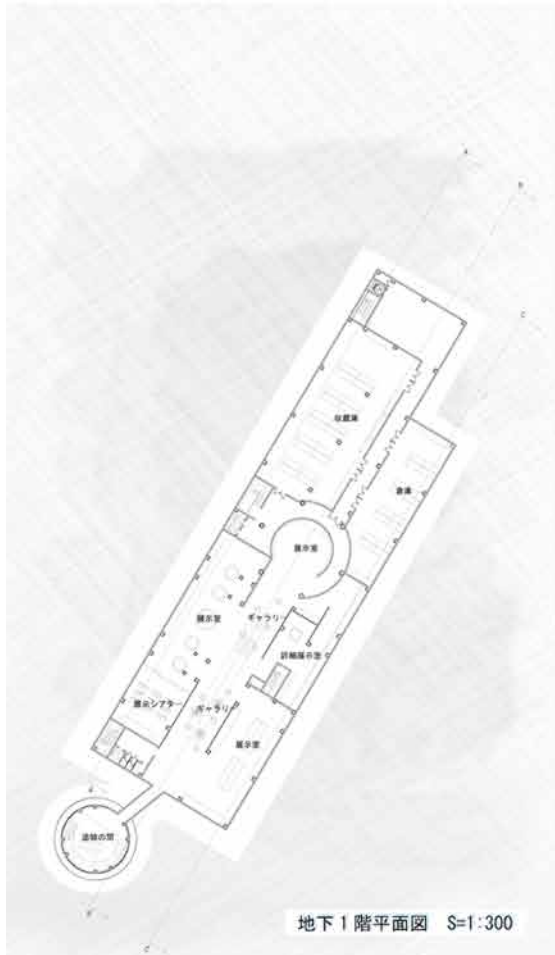
・ホールに入るまで人が
ホワイエからホールに入る
際の自然光をよびよりに
あり、ホワイエデッキの
広がりを感じてもらいたい。

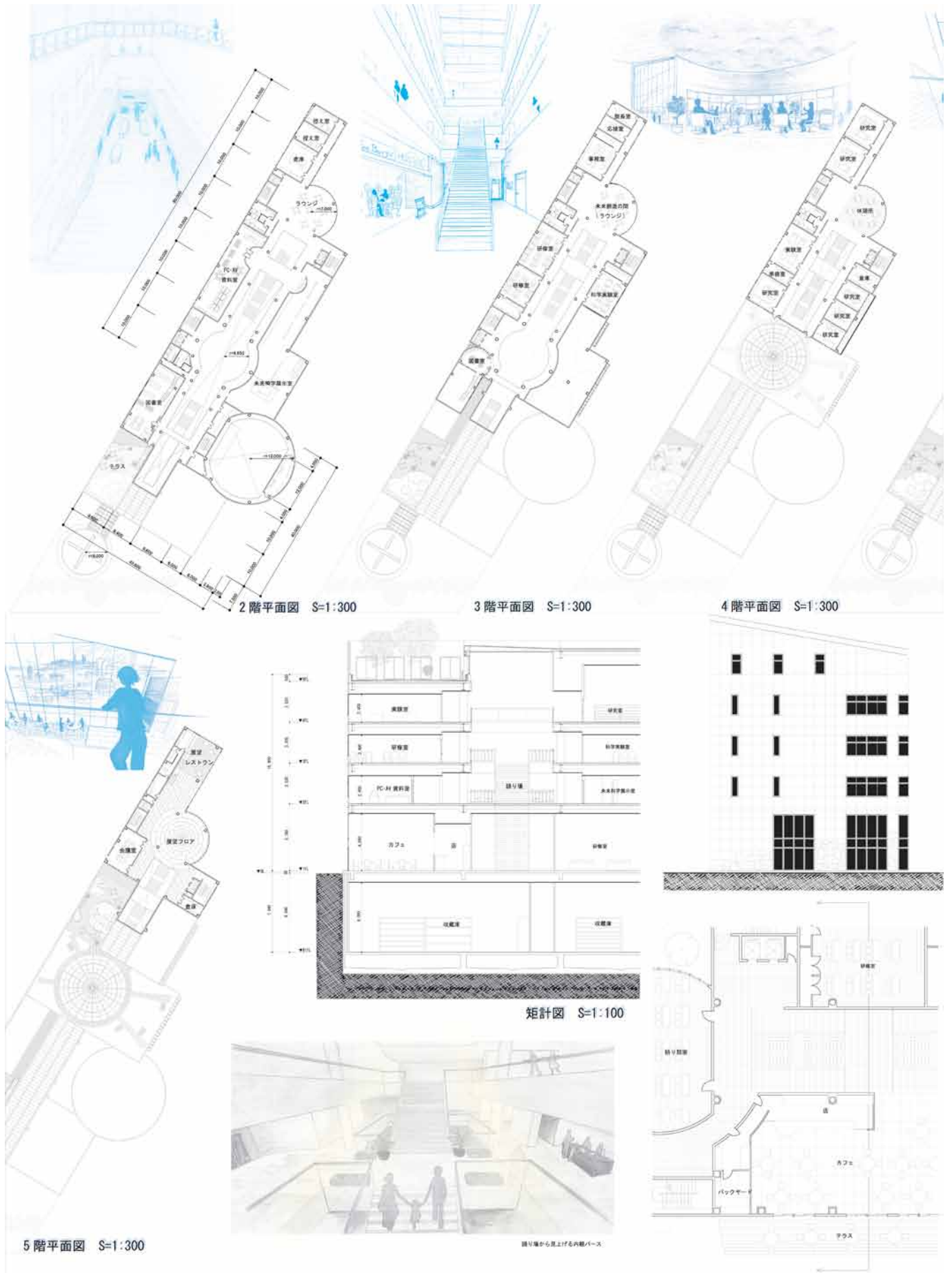
池

・建物の傾きにより、建物
がさらに地下までのび延び
ているように見せ、異なる歴史
の深さを感じてもらいたい。

追憶の間

・十年のトップライトを差し、
水たまりを映し出す
空間を作り出している。





ひとは忘れやすい

たとえどんなに

苦しく

辛い思いをしても

『時間』

を経ることで

想いは

かすれていく…



決して忘れてはならない

公害があったこと

多くの命の上に
今の自然があること

自然は壊れやすいこと

そして
やらなければならない

思いを伝えていくこと

環境を考え
自然と共に生きること

遺縁の案内階段パース



公害資料展示案内パース



公害資料展示案内パース